

「奥の院」

神社の本殿・本社から離れた場所に、お祀りされているお社を奥社・奥宮などと呼びます。長野県の戸隠神社の「奥社」や、富士山山頂にある浅間神社の「奥宮」などが有名です。内々神社の「奥の院」も本来は、奥社又は奥宮と呼ぶべきかもしれませんが、歴史的な経緯から、仏教的な「奥の院」という呼称が、変更されることはありませんでした。内々神社と「仏教」とのつながりは深く、明治政府によって神仏分離が強制的に行われるまで、中世・近世を通じて、内々神社は妙見宮として栄えました。また修験道や山岳信仰とも結びつき、修行の場でもありました。

つい最近のコロナによって、集団での人の移動が忌避されるまで、「講」の組織は健在で、先達につれられた信者さん達が、奥の院を目指して歩く姿が見られました。しかしコロナ騒動が収まって、(無くなったわけではありませんが)信者さん達の姿が見られることはなくなり、よく踏みしめられていた、参道も荒れ果ててしまいました。やむなく舗装道路を歩いている、奥の院参拝をお勧めしていたのですが、平日は碎石や砂利を運ぶダンプカーが頻繁に通行する、危険な道でした。そんな中、旧道を復活させたいという熱い思いが徐々に高まり、神社総代さん達の奮闘と、春日井市の支援によって、かつての「信仰の道」である旧道を復活させることが出来ました。

案内標識や道の整備など、まだまだパーフェクトではありませんが、庭園から奥の院まで安全に歩くことができるようになりました。これからも道の整備は続ける予定です。

社務所でお尋ねいただければ、道の案内が出来ますが、ホームページでも簡単な「案内」を作成すれば、お役に立てると考えました。



神社庭園から奥の院へ向かう道
左コース

奥の院へは本殿を背にして
左側からも右側からも
行くことが出来ます。

←



神社庭園から奥の院へ向かう道
右コース

右側コースは三峯社へ登る
この階段が起点になります。

途中に「天狗磐」と呼ばれる
巨大な一枚岩があります。
神々が降臨する「磐境」として
ここで古代祭祀が行われたのでは？
そんな学説もあります。

←

残念ながら祭祀遺物などは
発見されていません。

どちらを回ってもここに着きます・

↓

天狗磐



数年前に草刈りや樹木の
伐採をしたのですが
あっというまに・・・
元の状態に・・・



ひたすら奥の院をめざして歩きます。



岩と岩にはさまつ
れながら奥に向かっ
て進みます。

←

森と内津川に挟まれた
狭い道を進みます。 →

しばらく歩くと 19 号の
バイパスが見えてきます

↓





バイパスの支柱を回り込むように
道が続いています。

←

かなり急な上り坂です。↓





薄暗く鬱蒼とした森を抜けて歩きます。

イノシシには遭遇したことがありますが、熊はいないと・・思います。たぶん
←



へび神様

赤体龍王社 立派な名前があるのですが何の？どんな？神様なのか不明です。地元では「へび神様」と呼んでいます。

整備したいと思っていますが、今のところ手つかずです。

←

早春には奥の院の階段でへびがよく日向ぼっこをしています。

地面がかなりえぐれているので、
総代さんが駆けた仮橋です。 →
私はここで山の斜面からモーレツな
勢いで駆け下りてくるイノシシに遭遇
しました。

いよいよ奥の院は間近です。



御嶽教の霊神廟です。

どんなわけで、ここに祭られているのか
不明です。

御子孫に依頼され数年前に 100 年祭を斎
行したのですが、御子孫も「詳細は不明」と
のことでした。

←



急な石段を恐る恐る歩きます。

それにしてもこんな山の中に立派な石段を作ったもんだと感心？します。

←

登りより下りの方がはるかに怖いです。

山登りもそうでしょうか・・・

手すりもないし・・・

しばらく急な上り坂を歩き続けると、ようやく奥の院へ昇る階段が見えてきます。 →

私が神社に来た頃は、垂直な鉄ばしごでした。

覚悟を決めて上り下りした記憶があります。

はしごが出来るまでは、ロッククライミング(状態)だったと何かに書いてありましたが、本当でしょうか？



階段の最上部
からは、名古屋駅の
高層ビル群が
見えます。 →

階段下にあるコンクリート
の土台がある空き地は
「おこもり堂」があった
場所です。
ローソクの火の不始末
によって焼失しました。



← 洞穴？の中段あたり
にお祀りされています。

線香立てや、よく分からない
(神主が)仏具などがあり
ここだけは、相変わらず
神仏習合(神様と仏様が仲良く)
しています。

お疲れ様でした。

階段のすぐしたの分岐道を少し登ると
「金正尊」が祀られています。 こちらも正体不明の神様(か仏様)です。